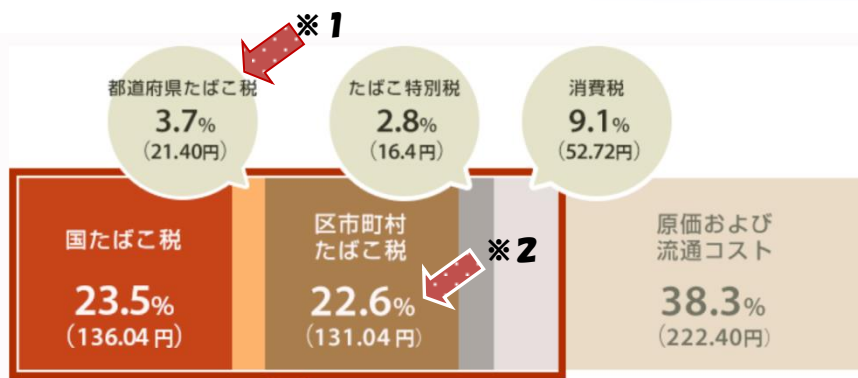


週刊 **タバコの正体**



タバコの値段の半分以上は税金で、その内の3.7%は都道府県(※1)に、22.6%が区市町村(※2)に納税されます。

例えば2015年ごろには、まん中の写真のようなポスターがありました。当時、1箱480円のタバコが売れると販売した市町村に114円が入っていました。だから、「たばこは〇〇市で購入をお願いします」と呼びかけていたのです。



たばこの税負担額合計 : **357.60円/箱 (61.7%)**

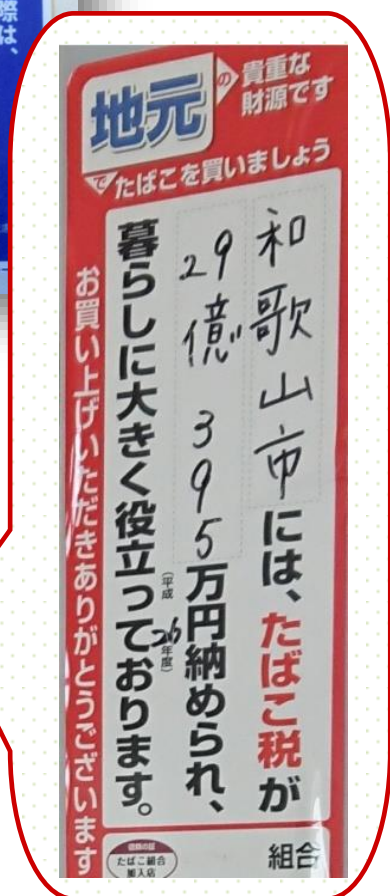
東京たばこ商業協同組合 HP から

(紙巻たばこ20本入一箱 = 580円換算のとき)

ちなみに、和歌山市においても下の写真のようにタバコの自動販売機に「地元の貴重な財源です」「地元でたばこを買いましょう」と書かれたシールが貼られていて、それには「29億395万円(平成26年度)が納められ暮らしに大きく役立っております。」と大きく記されていました。



朝日新聞 DIGITAL (2019年5月の記事)から



これを見ると、たばこ税は地方自治体にとっては大きな財源なので、タバコは売れた方が良いのでは、と思うかもしれませんが。しかし、それで良いのでしょうか。

そんな事はないですよ。タバコが多く売れるという事は、喫煙回数や喫煙者が増えるという事です。それはすなわち、人々の健康を大きくそこなう事につながるのですからね。

つまりこれは、人々の健康を犠牲にして財源を確保しているとも言える状況です。

皆さん、タバコにまつわるこんな事情も知っておいて下さい。

産業デザイン科 奥田恭久